大阪文化財センター調査報告 XXVII

(財)大阪文化財センター
大坂城跡発掘調査事務所

大阪府営水道事業第6次拡張事業 揚送水管布設工事に伴なう 埋蔵文化財発掘調査報告書

―― 高槻市 二子山古墳 土保山古墳
周濠確認のための調査 ――

(財)大阪文化財センター
京阪支所蔵書
番 295 号

昭和53年3月

大阪文化財センター蔵書

財団法人 大阪文化財センター

はしがき

財団法人　大阪文化財センター
理事長　加藤三之雄

高槻市には旧石器時代から歴史時代までの多くの遺跡が存在しているが、特に古墳時代には、摂津と山城を結ぶ西国街道沿いに多くの古墳が築造されていたのであります。今回調査した二子山古墳と土保山古墳は西国街道の北側に位置しており、有名な継体陵古墳（茶臼山古墳）より北へ500ｍ行ったところにあります。

二子山古墳の調査においては、昭和34年になされました調査を補足する資料が提出されました。その結果、二子山古墳の規模がより明らかになりました。また、残念ながら土保山古墳は名神高速道路が造られたおり調査され、その時多くの重要な遺構と遺物が検出されながら破壊されました。現在は石碑が残るのみです。今回の調査において、周濠が検出出来ないという結果が出ました。土保山古墳は従来から、前方後円墳か円墳かと二つの説がありました。私たちは調査結果から、幅10ｍの周濠をもつ円墳である可能性が有力と考えます。

これらの古墳は今城塚と継体陵という大きな古墳の間にはさまれ、見落されがちな小さな古墳であります。この付近には他にも小さな古墳が点々と散在しています。また『日本書紀』にも記載されている土室・氷室・闘鶏野という歴史的に古い地名をもつ、この地域の歴史が、これらの古墳の知見を得ることにより、ますます明らかになることを期待しています。

1978年３月

例　言

1)　本冊子は財団法人大阪文化財センターが、大阪府水道部の委託を受けて実施した、大阪府営水道事業第６次拡張事業揚送水管布設工事に伴なう埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2)　調査に必要とした費用（￥ 9,031,000）は全て大阪府水道部が負担した。

3)　調査は財団法人大阪文化財センター業務課調査室が担当し、昭和52年12月７日から昭和53年３月31日までの間実施した。

4)　上述の期間のうち、昭和52年12月12日から翌年２月７日までの期間は現地調査を行ない、それ以降は図面及び出土遺物の整理を実施した。

5)　現地に於ける調査及び出土遺物の整理は、調査室長中西靖人の指示の下、調査員村上年生・浅岡俊夫が担当した。

6)　本冊子の執筆は、中西靖人・村上年生・浅岡俊夫が当たり、図版の一部に関しては妹尾直子・清水淳子の諸氏の協力を得た。

7)　調査及び遺物整理に関しては、当センター福岡澄男・国乗和雄の諸氏の助言を得た。

8)　遺物写真は当センター写真室片山彰一が担当した。

9)　調査に当っては、愛染女子短期大学教授島田暁氏・高槻埋蔵文化財センター冨成哲也・大船孝弘・橋本久和各氏から、御教示を受けました。特に島田暁氏からは、昭和34年二子山古墳を調査された際の実測図を借していただいた。記して感謝したい。

10)　発掘調査にあたり、福川建設株式会社及び担当高橋能生夫氏の協力を得た。

11)　本書に掲載した図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2.5 万分の１地形図を複製したものである。(承認番号)昭和53年近複、第51号

目　次

はしがき
例　言
〔Ⅰ〕調査に至る経過……1
〔Ⅱ〕調査の方法……1
〔Ⅲ〕二子山古墳・土保山古墳と周辺の遺跡……3
〔Ⅳ〕調査結果……3
〔Ⅴ〕出土遺物……8
〔Ⅵ〕まとめ……10

図版目次

図版一　調査地域全景
図版二　第１トレンチ・第２トレンチ
図版三　第２トレンチ
図版四　第２トレンチ
図版五　第３トレンチ
図版六　出土遺物
図版七　出土遺物
図版八　調査地域の位置と周辺の遺跡分布図
図版九　トレンチ位置図
図版十　二子山古墳・トレンチ
図版十一　第１・第２・第３トレンチ実測図
図版十二　第４～第11トレンチ断面実測図
図版十三　出土遺物実測図
図版十四　出土遺物実測図
図版十五　出土遺物実測図

挿図目次

第１図　二子山・土保山古墳位置推定図
第２図　第２トレンチ石組遺構
第３図　石器実測図

〔Ⅰ〕調査に至る経過

大阪府水道部は、高槻市の西端部、同市土室及び宿名地内の市道で大阪府営水道建設事業を計画した。しかしながら当該工事計画地域には宮内庁管理になる陵墓参考地二子山古墳及び名神高速道路建設の際消滅した土保山古墳の周濠が含まれる可能性があるため、工事着工に先立って大阪府水道部は大阪府教育委員会とその取扱いを協議した。その結果大阪府教育委員会は上述の２古墳の周濠の位置を正確に把握する必要があるため、事前に試掘調査を実施すること。その結果にもとずいて押抜きピットの位置、開削可能な位置を決定したい。また当該試掘調査は財団法人大阪文化財センターに委託して実施されたい。の３点を回答した。この旨回答を受けた大阪府水道部は昭和52年11月21日付で財団法人大阪文化財センターに試掘調査の依頼をし、協議の上、昭和52年12月６日付で委託契約を締結した。

〔Ⅱ〕調査の方法

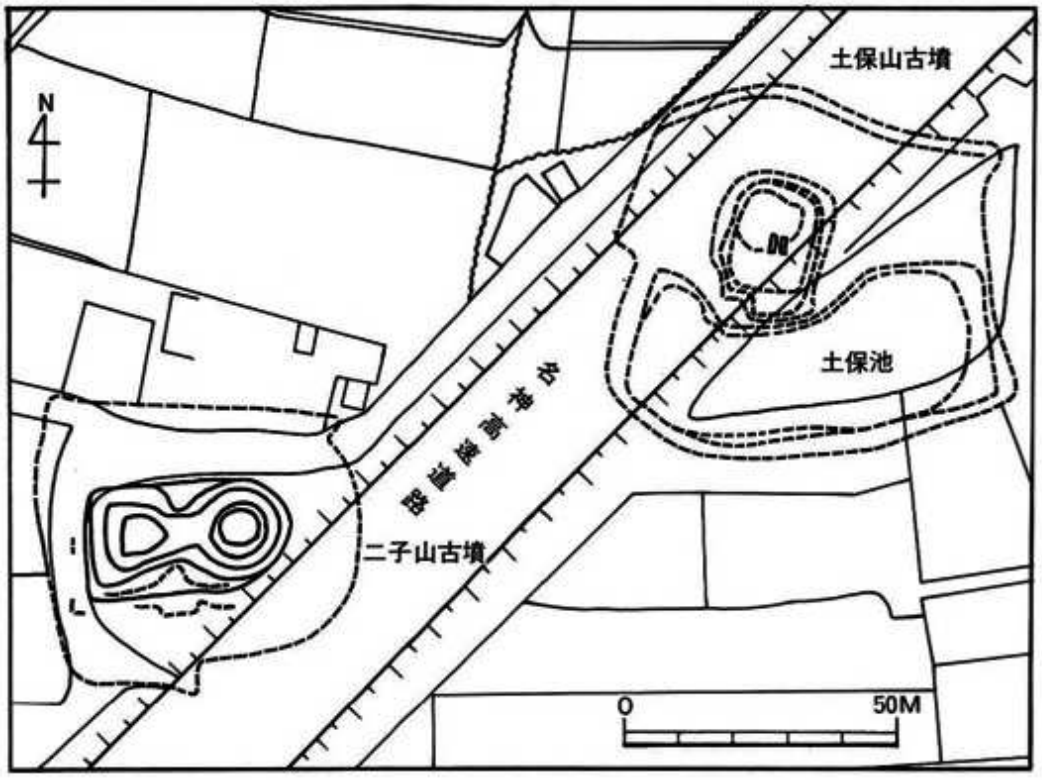
堀削位置の決定

『高槻市史第６巻考古編』に記載されている二子山・土保山古墳の実測図に昔の水田の畦畔が記入されている。 現在の畦畔は現地で見た時、 ほとんど改変されていなかった。

その後、高槻市の3000分の１を地図を1000分の１に拡大し、上記の地図を畦畔に合せて合成したものが、二子山・土保山古墳位置推定図である。トレンチの位置決定のためにこれを利用した。

二子山古墳側トレンチ

この部分の側道が二子山古墳の墳丘をさけ迂回している。そのため揚送水管も迂回して設置されることとなった。水道工事のためのピットは二子山古墳の北東・北西・南東にあたる側道の各コーナーに予定されていた。それら３カ所の位置は二子山古墳の遺構が検出される公算が多大であるため、そこにトレンチを設定した。第１・第３トレンチは周濠の外側の肩部を検出しようとするも



第１図　二子山・土保山古墳位置推定図

の、第２トレンチは道路の下に残存すると思われる前方部の墳丘及び周濠の状況を確認するためのものである。第１・第３トレンチに関しては側道の両サイドに電々ケーブルと市の水道管が埋設されているため、トレンチの形状は長方形ではなく、「く」の字形となった。

土保山古墳側トレンチ

土保山古墳は全壊しているため位置は明確ではない。当初第４～６及び第８～10トレンチについて調査したが周濠は確認されなかった。その結果から第１図に見られる、土保山古墳北側の里道と西側の段違の畦畔が交わる部分にトレンチを設定した。この部分が周濠の外劃線になる可能性があるためである。このトレンチは第７と第10トレンチ２つを合せて長さ20m としたが、道路の両サイドに電々ケーブルと市の水道管が埋設されているため､幅は1.3m と制約された。

堀削の方法

設定した各トレンチはトレンチの形状に従ってアスファルト・カッターを入

れた。その後、アスファルトをめくり、盛土を機械堀削で排除した。旧耕土以下は人力による堀削によって堀り下げ、原則として、一層ずつ順番にめくり調査を行った。

〔Ⅲ〕二子山古墳・土保山古墳と周辺の遺跡

二子山古墳・土保山古墳の立地するところは、旧摂津国三島郡・現在高槻市土室及び上土室町にある。国鉄東海道線摂津富田駅から高槻市バス日赤病院行に乗車し、土室の停留所で下車する。そこより進行方向に進み、名神高速道路のガードをくぐって左へ曲り、200mほど歩くと土保山古墳の跡である。「土保山古墳跡」の石碑はだいぶ位置がずれて立っている。歩いて来た進行方向の前方に樹木があり、二つのこんもり山が二子山古墳の墳丘である。墳丘だけは宮内庁の陵墓参考地に指定されている。

北側に阿武山山地をひかえ、南には富田台地にはさまれたこの地域は土室川の扇状地で、標高は約35mである。これより東側の今城塚がある扇状地は女瀬川の推積物により形成されている。

二子山古墳は現在長40m・後円径約20m・前方部幅約20mで、前方部は西面している。昭和34年に島田暁氏が調査をされ、削られて少なくなっているごとが確認されている、また北側のくびれ部には長7m巾3mの造り出しをもつことも明らかにされた。また外提上の2基の円筒埴輪が検出された。

土保山古墳は、以前には土山古墳と呼ばれており、昭和34年に陳顕明氏らによって調査された。当時の大きさは、直径20mの円墳で墳丘の高さ4mで周濠は土保山が外劃線かと考えられていたが調査では周濠は明らかにされなかったが、墳丘の埋葬施設の調査によって大変重要な結果が出されている。それは埋葬設備のことで竪穴式石室に組合式木棺を置くものと、これに並んでやや小さな組合式木棺が粘土槨におおわれていたものがあり、石室内の木棺には遺体を埋葬し、粘土槨の木棺内には武器・武具を副葬品として納めていた。

両古墳は高槻の西端に位置し、約300m南に行くと、茨木市にある茶臼山古墳（継体天皇陵三島藍野陵）がある。二子山・土保山古墳の周辺にある闘鶏山

古墳・西の原古墳・番山古墳・石塚古墳・石山古墳などを総称して土室古墳群と呼んでいる。(注①) その他に高樋古墳が土保山古墳の南東約200ｍ付近に存在することが確認されており（注②)、また土保山古墳の東350ｍ付近に全長150ｍ程度の前方後方墳の存在が推定されている。土室古墳群には古墳時代中期のものが多く、時期が明確でない闘鶏野古墳・高樋古墳以外すべて5世紀代のものと比定されている。また土室古墳群の東に存在する、今城塚・前塚古墳・氷室塚古墳も中期である。弁天山古墳の中にも中期の古墳は多く認められる。

特に前方後円墳・西孑山古墳・西ノ原古墳・石山古墳・郡家車塚は前方部が西面する。番山古墳・前塚古墳も西南面する帆立貝式の古墳である。土室古墳群と今城塚周辺の古墳を同一に考えることは出来ないかもしれないが、両グループが関連をもちながら形成されてきたことは否定できないだろう。

また古墳時代中期でも5世紀中頃から後半に時期を限定出来る古墳として、二子山・石山・土保山・石塚の4基がある。二子山古墳・石山古墳は前方後円墳であり、円墳の可能性がある土保山古墳、方墳であろう石塚古墳と築造形態が異なっている。

以上特に古墳時代中期を中心に記述してきたが、古墳時代前期には弁天山古墳群に数基の古墳が存在している。後期には闘鶏山古墳の北に位置する円墳の皇子塚・また土室古墳群の西北に50数基が現存する塚原古墳群がある。

（注1）　『茨木市文化財資料集第9号石山古墳』

（注2）　『高槻市史第6巻考古編』

〔Ⅳ〕調査結果

発掘した地域は、名神高速道路建設に伴いその側道として現在の道路が造られた。名神建設以前は水田面であったがその部分に盛土を行い道路としたもので、盛土は機械堀削をした。

第1トレンチ（図版一・図版十一）

本トレンチは二子山古墳周濠の南西部分の肩を検出しようと調査したものである、結果は周濠は検出されなかった。道路面から約80～90ｍの盛土を機械堀

削した。盛土の下には旧耕土はなく、非常に堅緻な層で遺構・遺物は全く認められなかった。

最終面（ＯＰ約31.5ｍ）において自然流路を検出したが、内部には遺物はなく、深さ・土質から見て、二子山古墳よりもっと以前の時期のものである。

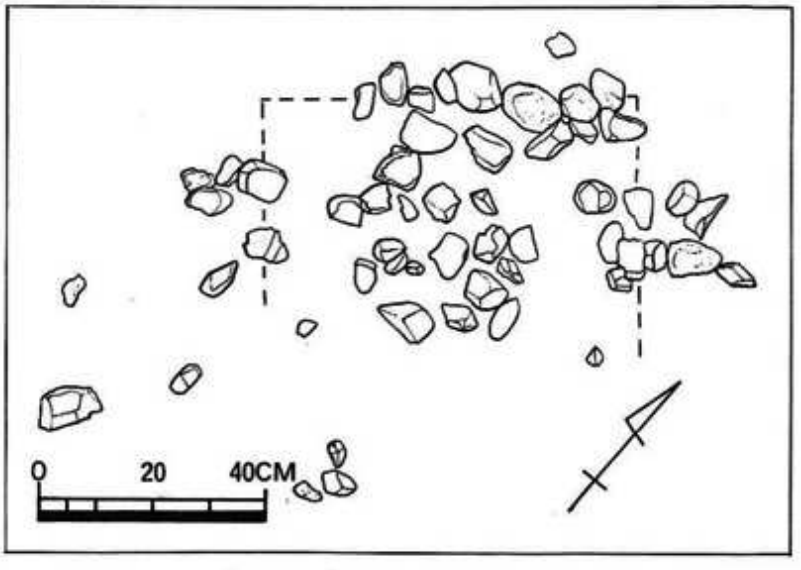
周濠が検出出来ない理由としては、①本道路建設時に多数のトラックが入り、非常に荒されたという地元の人の意見があり、当時に攪乱を受けたこと、②周囲が水田であった当時の実測図の水田面の高さも、第３トレンチ付近の高さから２ｍも低くく、もっと以前の時代に削られて周濠がとばされていまったことが考えられる。断面などから推定すると、①の攪乱もあった痕跡も存在するが、②の理由によるものと考えたい。それは第２トレンチの墳丘が削られている状況と同様であった。

第２トレンチ（図版三・図版十一）

本トレンチは、上辺7.8ｍ・下辺20ｍ・高さ８ｍの台形のものである。実際の調査においては西側に高槻市の水道管が「⌣」状に配管されており、また東側においては、電々公社のケーブルが弧状に埋設されていたことから、調査面積は数十％少なくなっている。

道路面から約１ｍの盛土を機械堀削で取り除き、水道管・電々ケーブルの位置を確認し保護するためにトレンチ・シートを横に打ち込んで固定した。

旧耕土は部分的に残存するのみで、灰黄色土（耕土混り）層の下部で石組遺構を検出した。



第２図　第２トレンチ石組遺構

染付の磁器の破片が1片、石の間から出土しており、近世の時期のものである。石組の配置は石が動いている部分があるため明確ではないが、周囲は「コ」の字形に石を置き、北側の一辺寄りに円形を作っている。石は15～20cm前後の河原石を使っている。当初は経塚・炉などと考えたが、堀方・炭化物の推積など認められず、性格は不明である。

灰黄色土（耕土混り）からは、埴輪片が多数含まれており、これは攪乱によるもので、その他には土師器片・羽釜片・瓦器片が若干出土している。

灰黄色土（耕土混り）を排除すると、前方部の墳丘面が検出出来た。この墳丘面は現存する墳丘の裾から0.9m低く、また墳丘面に水路状の遺構や面に凹凸があることから、水田耕作に伴なって削られたのであろう。周濠の底部は平垣に近く、深さは残存する墳丘上から60cmであった。周濠内の推積である黒色砂泥（濠内第一次堆積土）からは円筒埴輪片が多数出土している。周濠の下場の南端で墳丘から転げ落ちた状況で円筒埴輪片が若干固まって出土しているが、1個体分には全然満たない。また周濠の底部から葺石を5個検出したが、この石は河原石で15m程度の大きさである。

第3トレンチ（図版五・図版十一）

本トレンチは二子山古墳の周濠の外提部の肩を検出するためのものである。道路面から1.2mの盛土を排除すると旧耕土が残存していたが、その下部にある2層を排除すると、周濠の肩部を検出した遺構面である。この面は道路面から約1.8mの深さで、OP約34mであった。検出した周濠は古墳の後円部に対応する円弧状の周濠の北側の部分である周濠の「ノリ」面は三段築成されている。一番上の肩部の線は北へ曲がっており、2・3番目の段は本来の周濠に近い形状を残している。周濠の深さは一番深い部分で1mであった。周濠の下層の黒色砂からは円筒埴輪片が多数出土しており、また須恵器・土師器の破片が数点出土している。

第4トレンチ（図版十二）

道路面から1.2mまで盛土。旧耕土から約1.2mまで調査を行ったが、遺構・遺物認められない。

第5トレンチ（図版十二）

道路面から1.1ｍまで盛土。旧耕土から1.45ｍまで調査を行ったが、遺構・遺物は認められない。

第6トレンチ（図版十二）

道路面から1.0ｍまで盛土。旧耕土は西側に向い落ちて行く。旧耕土の一番高い部分から70㎝下げた面で溝が検出された。溝は南北方向に走り西側に落ちる。溝の深さは約70ｍで、構内から遺物は全く出ず、時期は明確ではないが、古墳時代頃であろう。トレンチ全体からも遺物は全く検出されなかった。

第8トレンチ（図版十二）

盛土は約80ｍで、旧耕土から約2ｍまで堀り下げ調査したが、遺構・遺物は全く検出されなかった。

第9トレンチ（図版十二）

盛土は約50ｍで、旧耕土から約1.5ｍまで調査するが、遺構・遺物は全く検出されなかった。

第10トレンチ（図版十二）

盛土は約80㎝で、旧耕土から約2ｍまで堀り下げ調査を行ったが、遺構・遺物全く検出されなかった。

第7トレンチ・第11トレンチ（図版十二）

本トレンチは土保山古墳の周濠がかかる可能性の一番多大であったトレンチである。盛土は道路前から約1.1ｍまであり、旧耕土から60～70ｍ下げたところで、古墳時代の面が検出された。この面から埴輪片が多数出土しており、第4～6トレンチ・第8～11トレンチの状況と若干異なる。この面においては土保山古墳の周濠は認められず、第7トレンチ南西端付近に小溝とpitが検出できた。小溝は広い部分の幅80㎝、狭い部分40㎝で、形状はトレンチ内では円弧状で確認できた。小溝の深さは15㎝、南側は深くなり40㎝であった。溝・pitとも性格は不明。古墳時代の遺構面から部分的に深堀りを行い、昭和34年の調査で地山であると推定されている、黒褐色の粘土質の土を確認しようとした。それと対応するものとして古墳時代遺構面より約1ｍで黒色粘土が認められ、この間は厚い砂層であった。

遺物としては埴輪片が、遺構面及びその上に推積していた薄い砂層から、数十片出土した。

〔V〕出土遺物

二子山古墳出土遺物

遺物は第２・第３トレンチから出土したもので、特に第２トレンチのものがほとんどである。時期の新しい遺物が上層から出土しているが、ほとんどが埴輪片であった。

円筒埴輪

土師質の円筒埴輪

口縁部（１・４・13・14）

復原口径は23～30cm内外。口縁端部にハケ目を残すもの、強くヨコナデするものとがある。外面調査はタテハケの後、Ｂ類ヨコハケ(断続的なヨコハケ)を行う。胴部（６・７・21・22・23・24・25・27）

タガはすべて台形である。外面の調整はタテハケを施した後、Ｂ類のヨコハケを行う。タガ接合部の上下には接合の際、ヨコナデを施すため、ヨコハケの痕跡がわずかに残っている。内面の調整は、ハケ及び指押工である。しかし(21)はヘラケズリを若干行っている。

指押工は当然のことながら、タガ接合部の内面に多用している。

基底部（41・42・43）

基底部の復原径は、最小のもので13cm最大25cmである。(12)はタガの部分も残存する唯一の遺物で、基底部の径19cm、底部からタガまでは12cmである。タガの部分の外径は23.5cm、タガにはヨコナデの痕跡が認められる。外面の調整は底部から上６cmまではタテハケ、それよりタガの間まではヨコハケを施している。それ以外のものは、剝離がはげしく不明のものがあるが、ヨコハケの痕跡が認められるのは(41)である。内面調整に関しては、指押工・ナデを多用する。

須恵質円筒埴輪

口縁部（３・17・18・19）

口縁端部はヨコハケの後、ヨコナデを施す、外面調整は(17)は右下りのナナメハケを行い、(3)は横ハケののち部分的にタケハケを行っている。口径は、約12cm前後のもの3点、約17cmのもの1点である。

胴部（8・9・28・29・30・31・32・33・36・39・40）

タガの部分の外径は最小のもの18cm・最大のものは42cmである。特に23cm前後と30cm前後とが各4点ずつある。外面の調整はヨコハケ・(32)のみがヨコハケの上に部分的にタケハケを行っており、また内面の調整もこれのみが、ヨコハケのあとに部分的にタケハケを行う。その他の内面調整はナデ・指押工である。透しが認められるものは3点あり、(28)・(29)は円形の透し、(31)は方形（長方形）である。

基底部（11・45）

底部の復元径はどちらも19cmである。外面調整はヨコハケ・(45)は下部1.5cmの間はヨコハケののち、タテハケを施す。内面はナデ・指押工を行う。

円筒埴輪は川西宏幸氏の編年でいう、第Ⅳ期のものがすべてであり、時期としては5世紀中葉・後葉にあたる。

朝顔型円筒埴輪

朝顔型円筒埴輪の口縁部が2点（2・15）・肩部が2点（10・37）が出土している。肩部は張りがなくなり、なだらかになった時期のものである。特に(10)はタガは接合した後に、タガの端部に薄く粘土を張り形作っている。(34)は頸部がラッパ状ひらいた上部部分かどうかは明確ではない。現在はラッパ状の中段のタガの部分と判断した。これは接合の状況がよく判り接合した後に、あまった粘土を下の端部へ薄くおおいタガを形成している。(20)・(35)はラッパ状のタガの部分であろう。朝顔形埴輪の外面調整はヨコハケ・内面調整は斜メハケ・ヨコハケが顕著である。

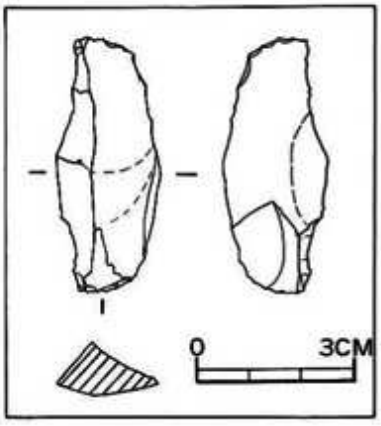
形象埴輪

(38)はヘラ描の直線が平行して4条有、内面はヨコハケの後にヨコナテを施すのが認められる。(5)はヘラ描の模様がくっきりと残っているもので、家形埴輪の破片であろう。

その他の遺物

石器（第３図）・横長の剝片で、全面に風化がはげしく、白灰色を呈している。左側辺は上部は鋭い刃部をもつが、下部は部厚いままである。左側の打面には剝離を施さずナイフ型石器とすることは出来ないであろう。

その他に古墳時代以外の遺物としては、土師質の羽釜(48)・瓦質の羽釜(47)・瓦器・奈良～平安時代の片口(46)・須恵器の大カメなどの破片が認められた。



第３図　石器実測図

土保山古墳付近出土遺物

第７・11トレンチから出土したもので量的には少い。

土師質円筒埴輪

胴部

タガの外径は30cm前後である。表面の剝離がはげしく調整が判るものは少い。(50)の外面調整はタガの上はヨコハケを施しているが、下部はタガ接合以前のタテハケが残っており、接合の際のヨコナデによりタテハケが消えている。(55)は外面はタテハケの後ヨコハケで内面は指押工である(57)は基底部で径は17cmであるが、調整など不明である。(58)は底部かどうか明確ではない。

これらの遺物は、円筒埴輪の編年の第Ⅳ期のものである。特徴のある遺物としては高槻の埋文センターの冨成哲也氏の教示によると、(49)・(53)の円筒埴輪は器壁が薄く、横断面が長楕円形になるものである。胎土的にも他のものとは異なり、黄白色の地に褐色の部分が点々と散っている。これらは今城塚から出土するものと同一と言われている。

〔Ⅵ〕まとめ

二子山古墳

今回の調査により昭和34年の調査を裏付ける資料が出るとともに、ますます二子山古墳の規模が明らかになった。

まず墳丘の全長は50m内外になり、前方部の幅は30m近くなっている。また

前方部の墳丘は水田耕作時に削り取られ現状のように小さくなったのである。また周濠の外劃線と思われた、第１図に見られる前方部西側の畦畔は外劃線を現すのではなかった。その畦畔が外劃線であると、前方部の周濠はひどく寸詰まりになりすぎる。本来はその畦畔から数m西へ周濠の外画線があるものと考えられる。また図版十を見ると前方部が後円部より広がる新しい形態を呈するのかと考えたが、しかし後円部も同様に幅が広くなると推定される。以上のことから古墳の平面形は、前方部と後円部が同じ位の幅をもつ古墳であると考えている。

また埴輪研究が進展し編年が明らかされてきつつあるので、埴輪の時期が明確になってきた。二子山古墳は５世紀後半～６世紀前半に限定できる。

土保山古墳

土保山古墳については周濠が明らかに出来なかった。調査において我々は、第７・第11トレンチに期待をかけたのである。しかし結果は前述したごとくであった。第１図の推定図の位置が正確でなかったのであろうか。もう少しトレンチを名神側に設定するか、あるいは周濠に直行する形でトレンチが設定出来ればと考えたこともある。今回の結果から土保山古墳は幅10mの周濠をもつ円墳であるという感を強くした。次回に調査がされれば、周濠が明確になることに期待したい。

また付近にある新池窯跡に見学に行き、灰原などに散乱している埴輪を採集し、今回出土したものと比較してみた。新池の窯跡の最盛期は６世紀頃といわれており、時期などからも、二子山古墳の埴輪が新池の窯で焼かれたのであろう。

図版一　調査地域全景

遺跡全景　二子山古墳付近

遺跡全景　土保山古墳付近

図版二　第一トレンチ・第二トレンチ

第1トレンチ　自然流路

第2トレンチ　石組遺構

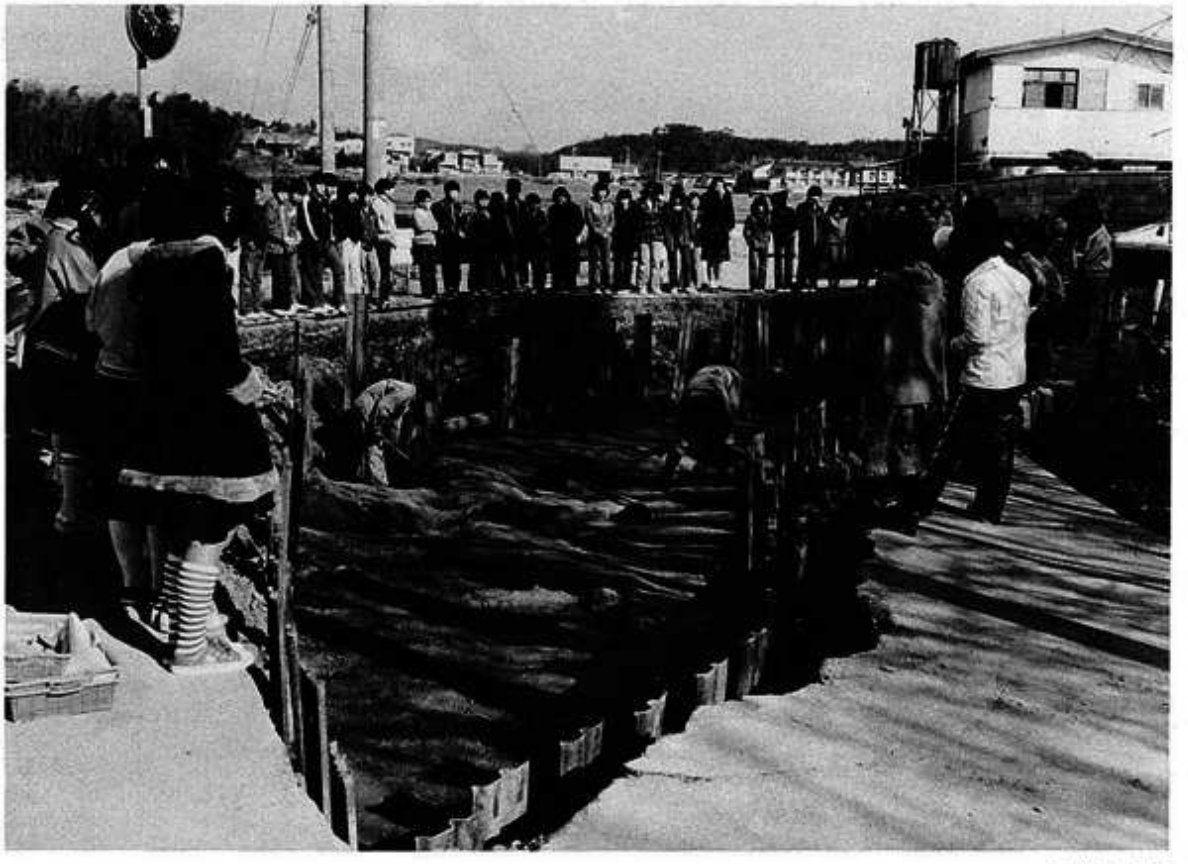
図版三　第二トレンチ

第2トレンチ　全景

第2トレンチ　南西から

図版四　第二トレンチ

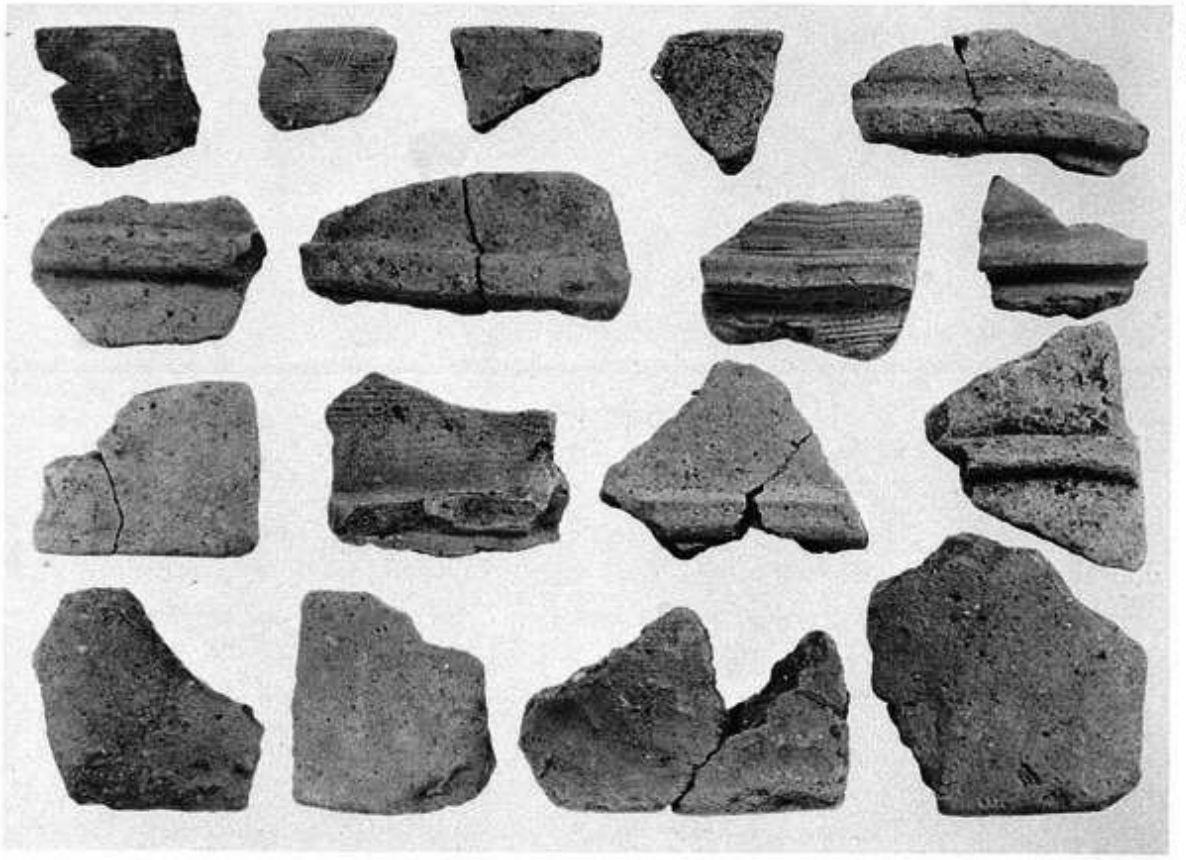
第2トレンチ及び二子山古墳前方部



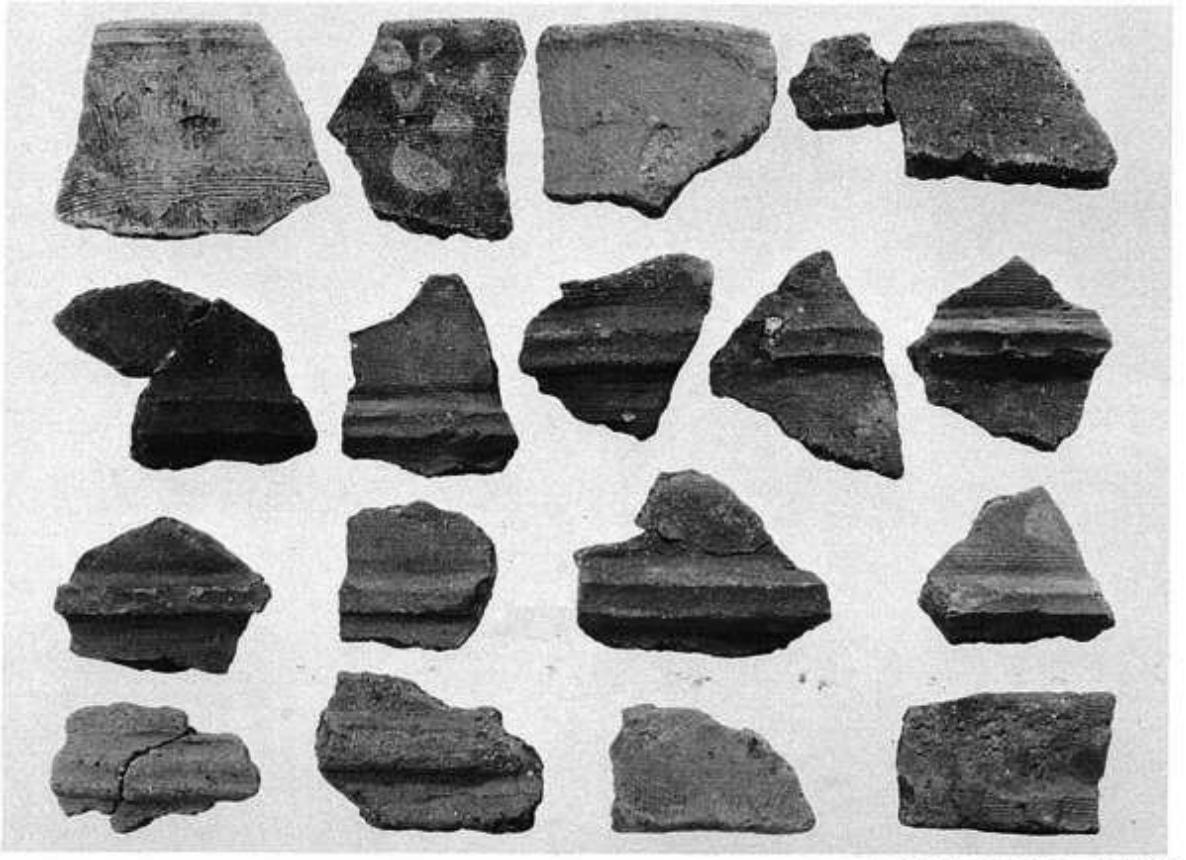
見学会風景

第3トレンチ　二子山古墳周濠肩部

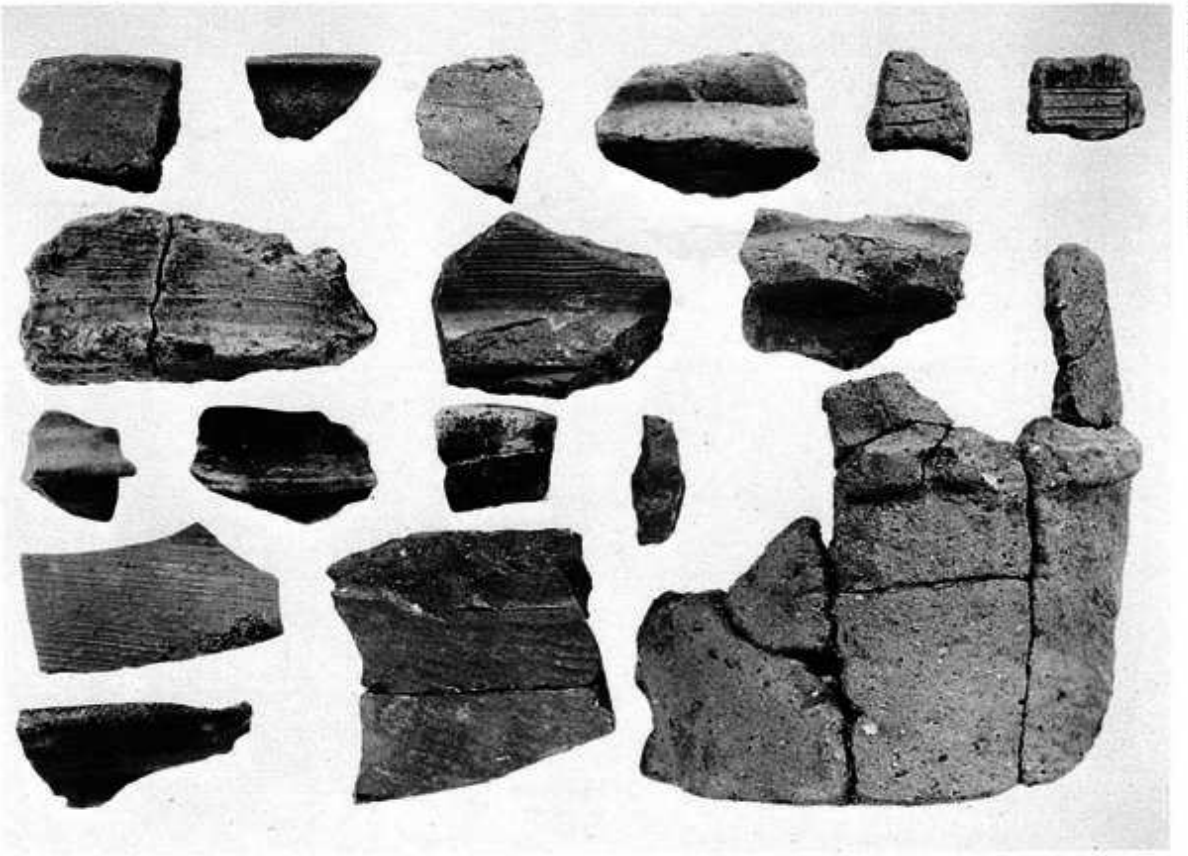
第3トレンチ　二子山古墳周濠肩部(下から)



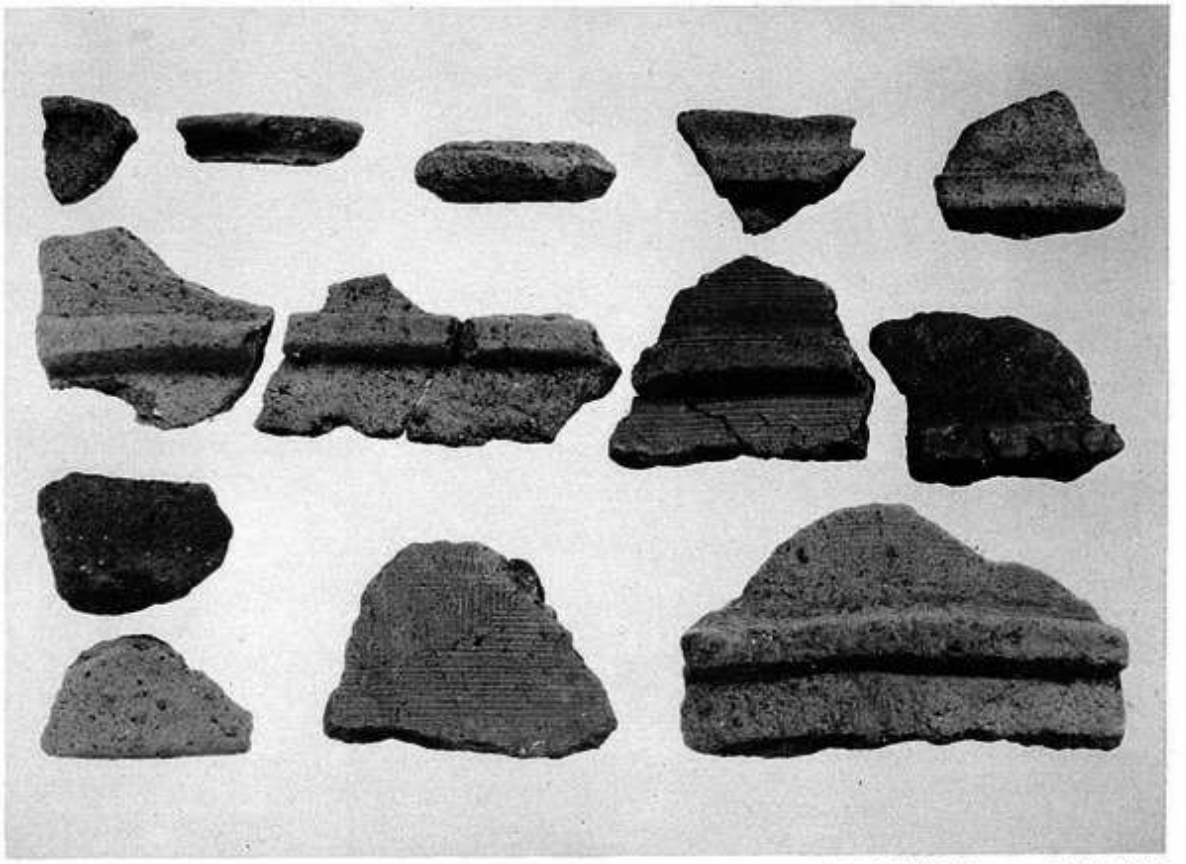
二子山古墳出土土師質円筒埴輪



二子山古墳出土須恵質円筒埴輪

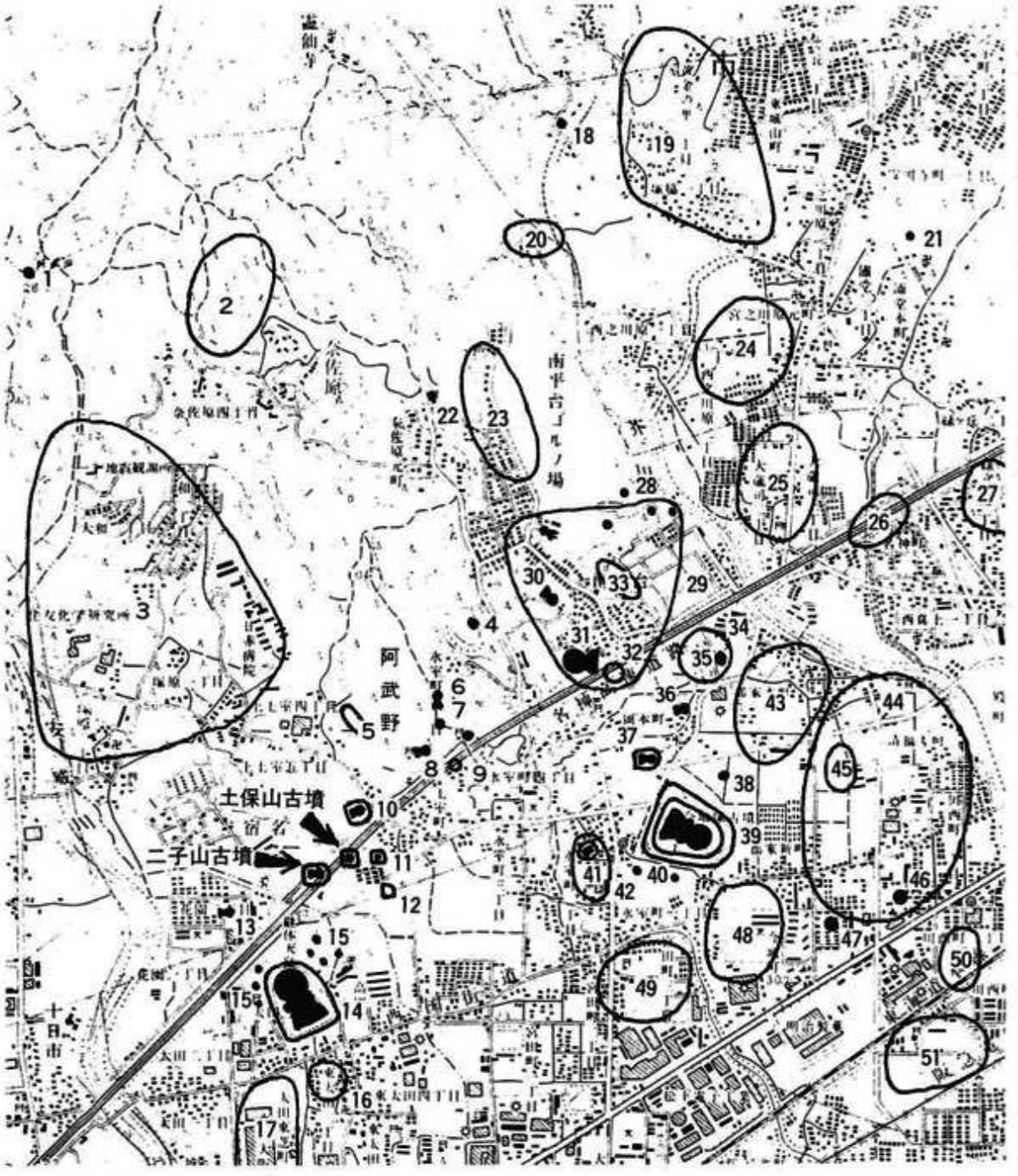


二子山古墳出土朝顔型円筒埴輪ほか



土保山古墳側トレンチ出土埴輪

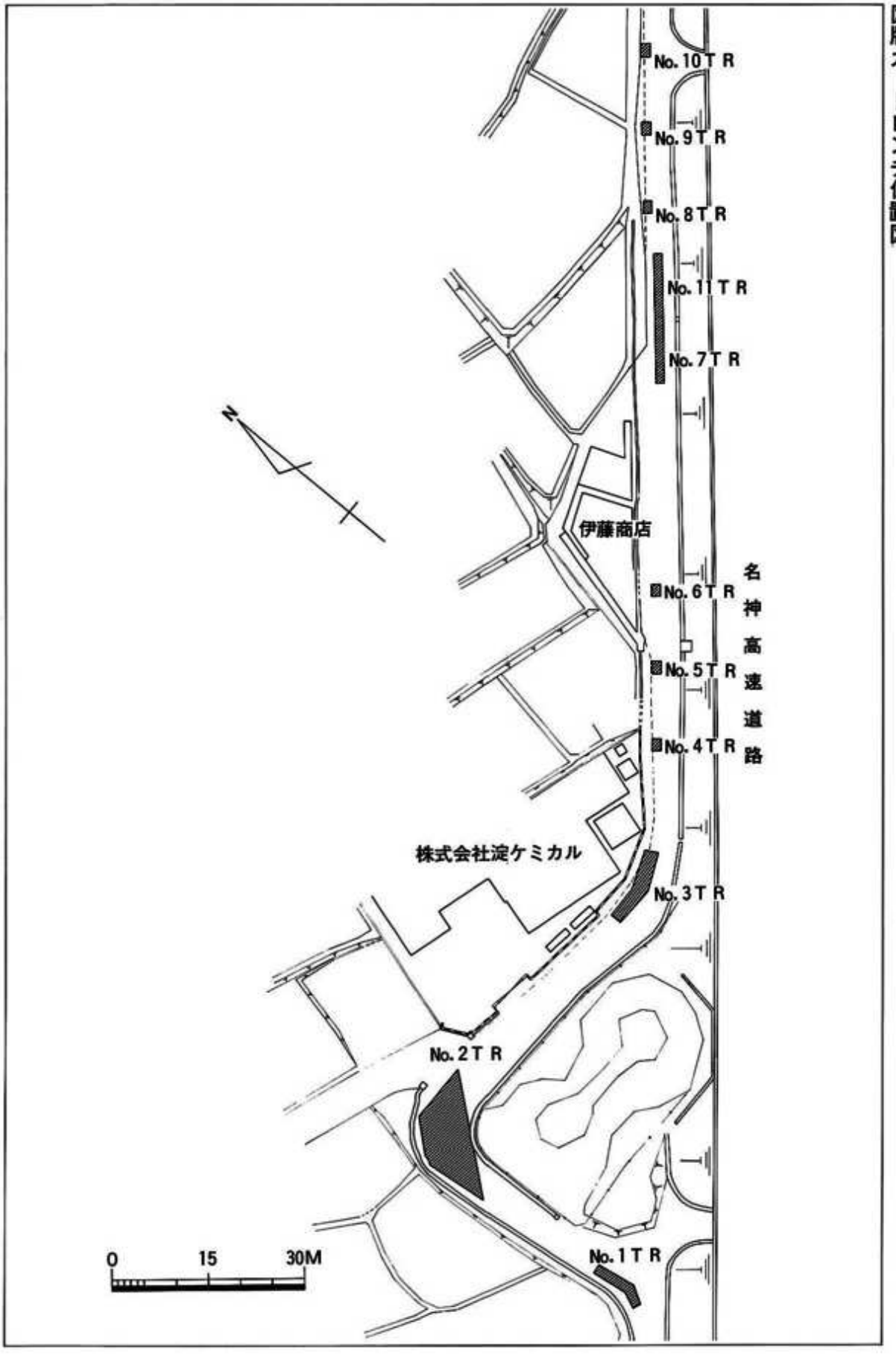
図版八　調査地域の位置と周辺の遺跡分布図



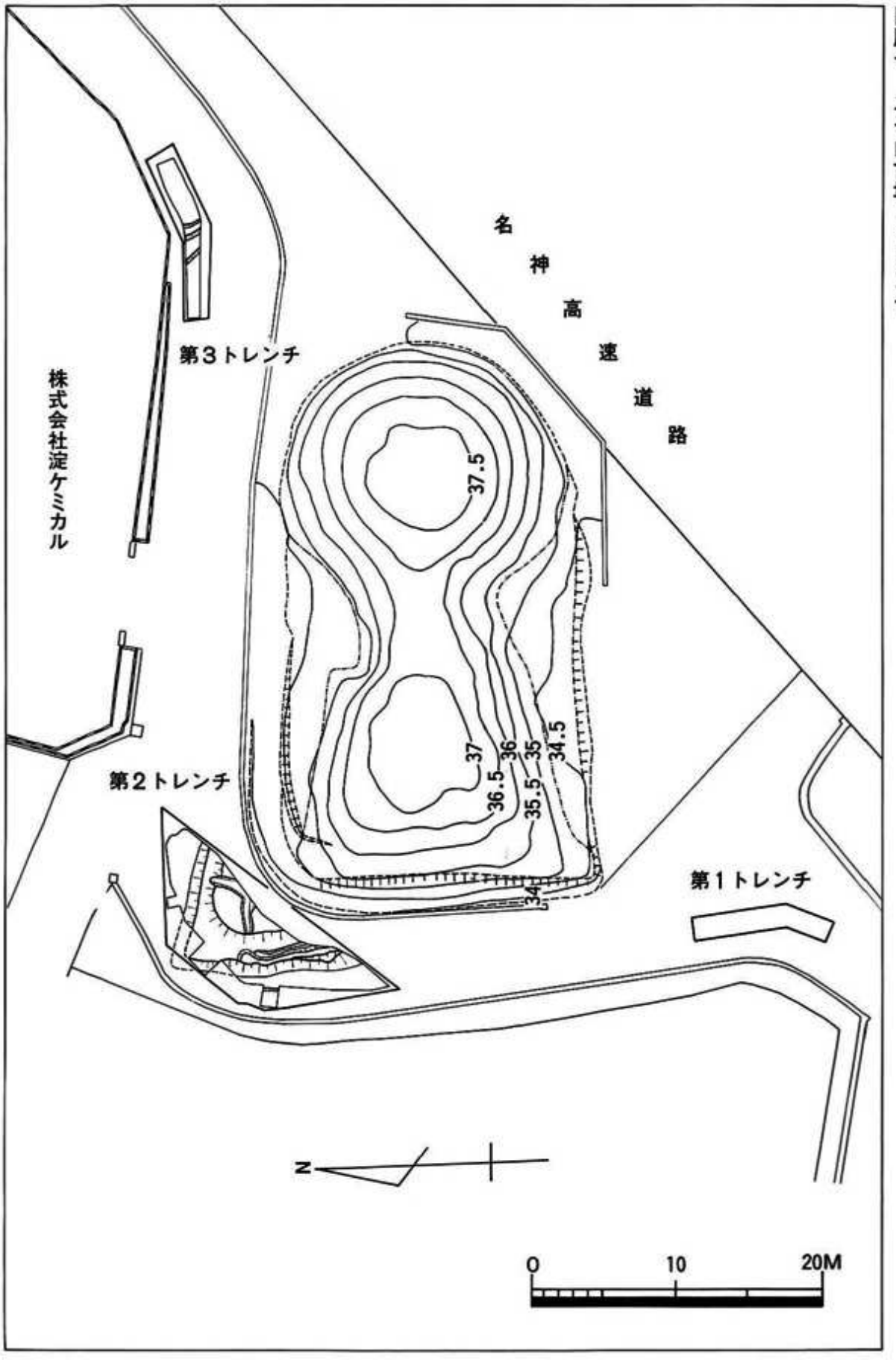
1阿武山1号墳
2片ケ谷古墳群
3塚原古墳群
4皇子塚古墳
5新池窯跡
6闘鶏山古墳
7闘鶏野古墳
8西ノ原　〃
9土室瓦器散布地
10番山古墳
11石塚古墳
12高樋　〃
13石山　〃
14茶臼山古墳(継体陵)
15茶臼山古墳陪塚
16太田廃寺
17太田遺跡
18上山田古墳
19塚脇古墳群
20塚穴古墳群
21安岡山古墳
22殿岡神社古墳
23墓谷古墳群
24宮之川原遺跡
25大蔵司遺跡
26真上遺跡
27安祥寺古墳群
28南片山古墳
29弁天山古墳群
30弁天山古墳
31岡本山古墳
32岡本山火葬墓群
33郡家古墳群
34上野遺跡
35御防山古墳
36郡家車塚古墳
37前塚古墳
38狐塚古墳群
39今城塚古墳
40今城塚陪塚
41氷室塚古墳
42氷室遺跡
43郡家本町遺跡
44郡家川西遺跡
45芥川廃寺跡
46黒土古墳
47一本松古墳
48郡家今城遺跡
49宮田遺跡
50津之江北遺跡
51津之江南遺跡

(承認番号　昭53近複第51号)

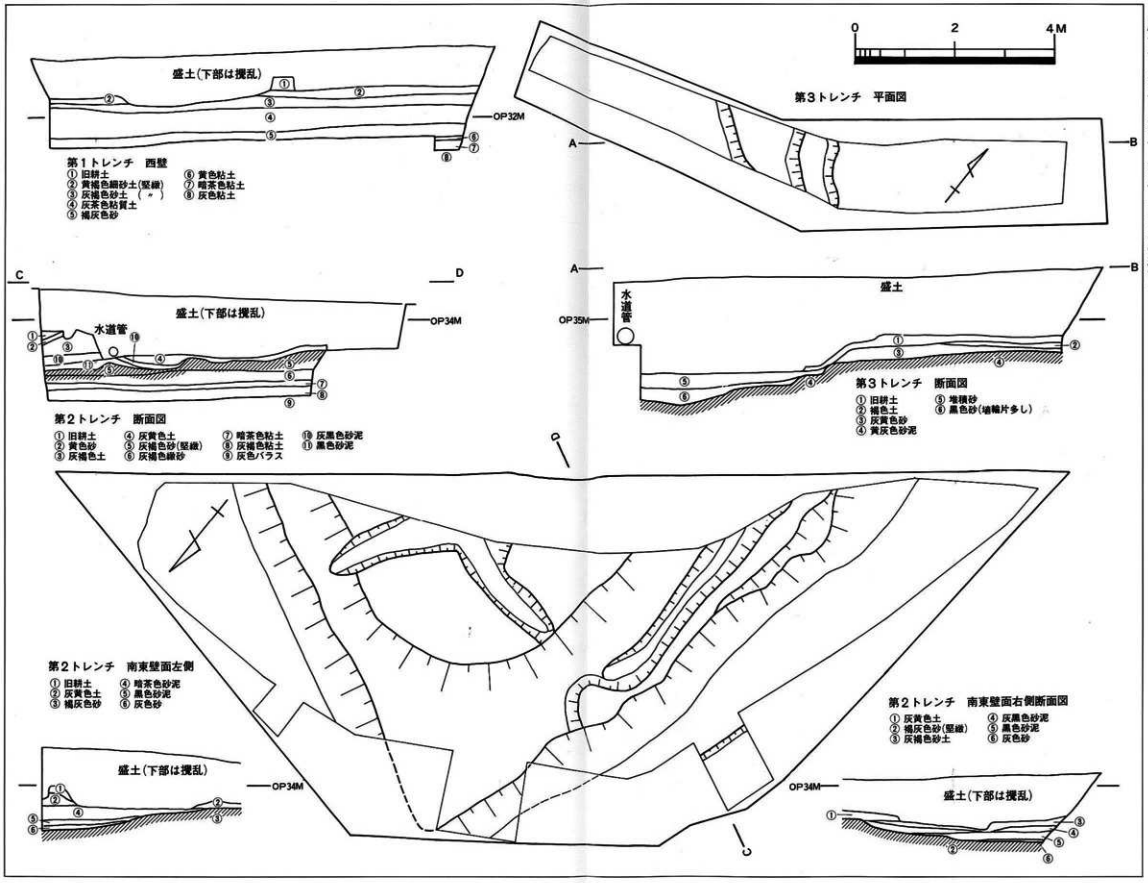
図版九　トレンチ位置図


No. 10 T R
No. 9 T R
No. 8 T R
No. 11 T R
No. 7 T R
N
伊藤商店
No. 6 T R
名神高速道路
No. 5 T R
No. 4 T R
株式会社淀ケミカル
No. 3 T R
No. 2 T R
No. 1 T R
0
15
30M

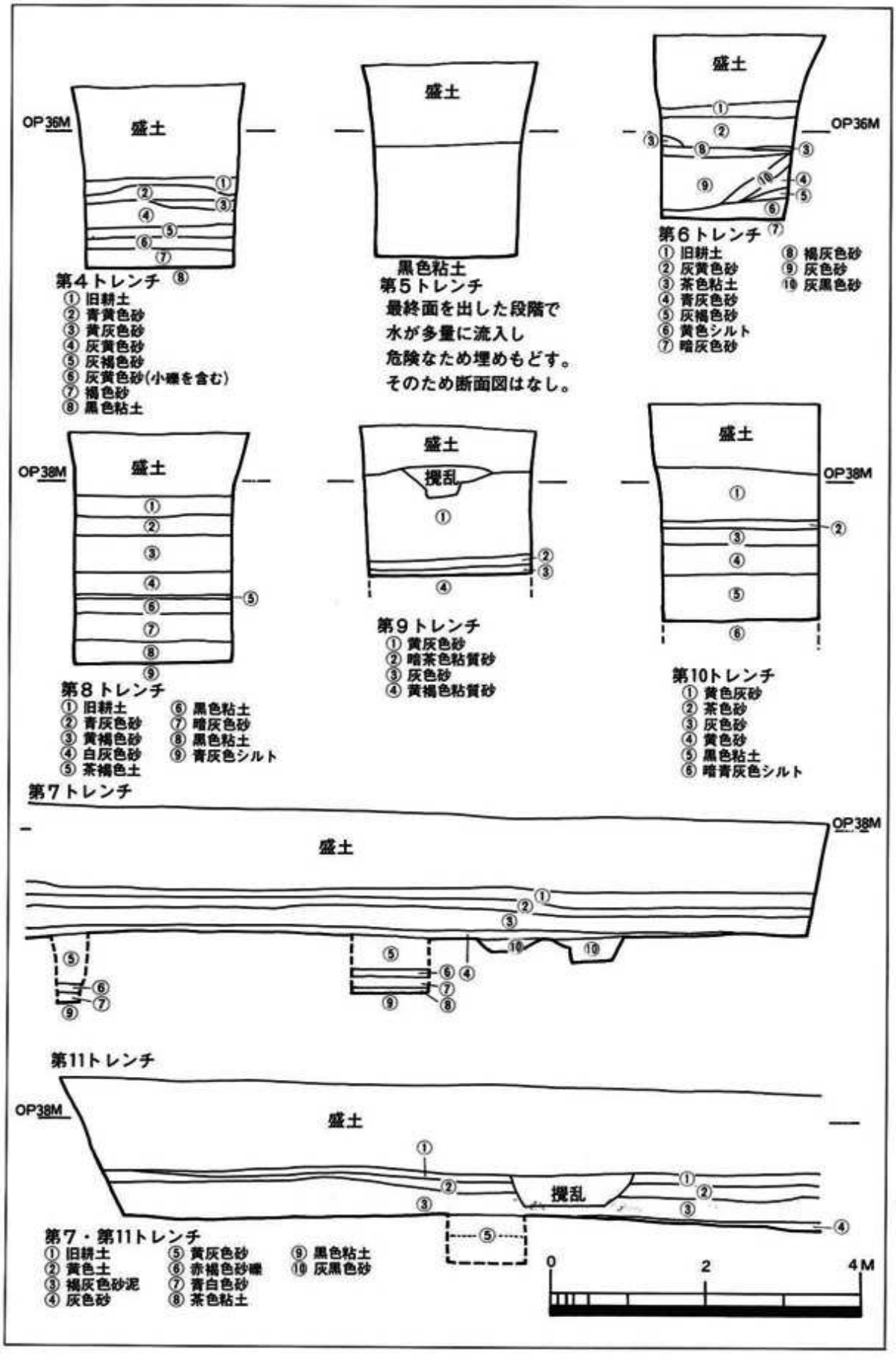
図版十　二子山古墳・トレンチ

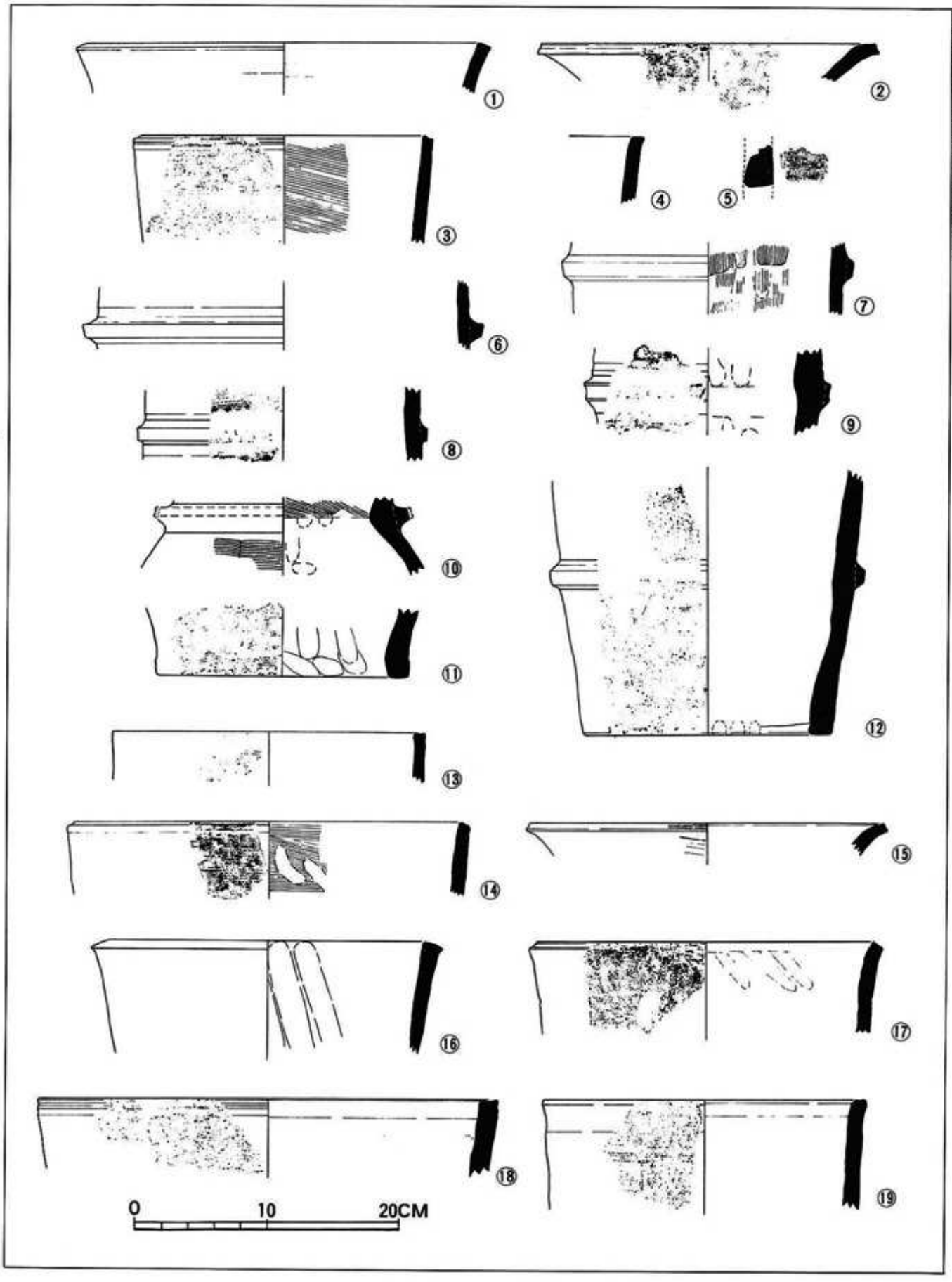


図版十一　第一・第二・第三トレンチ実測図

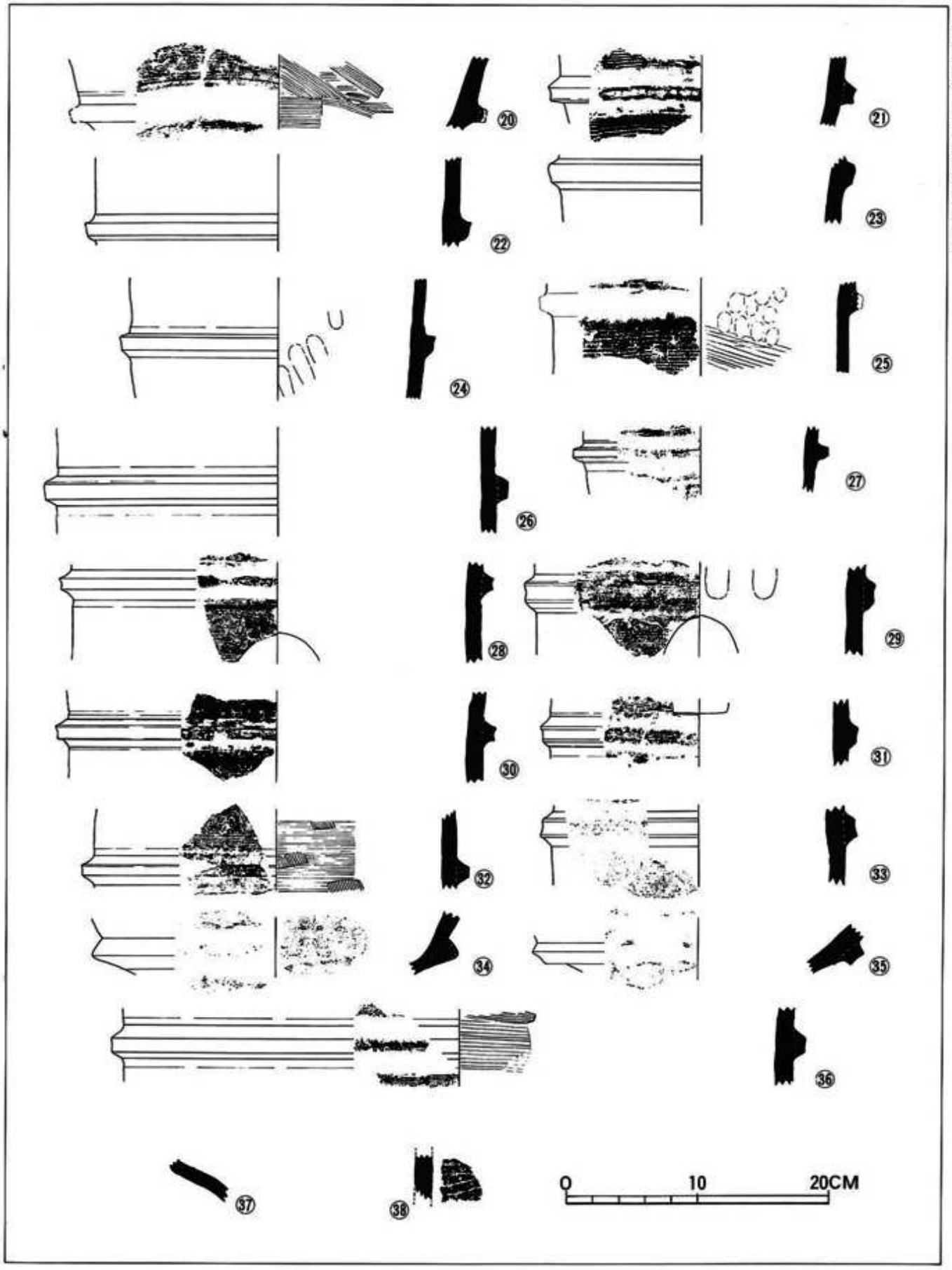
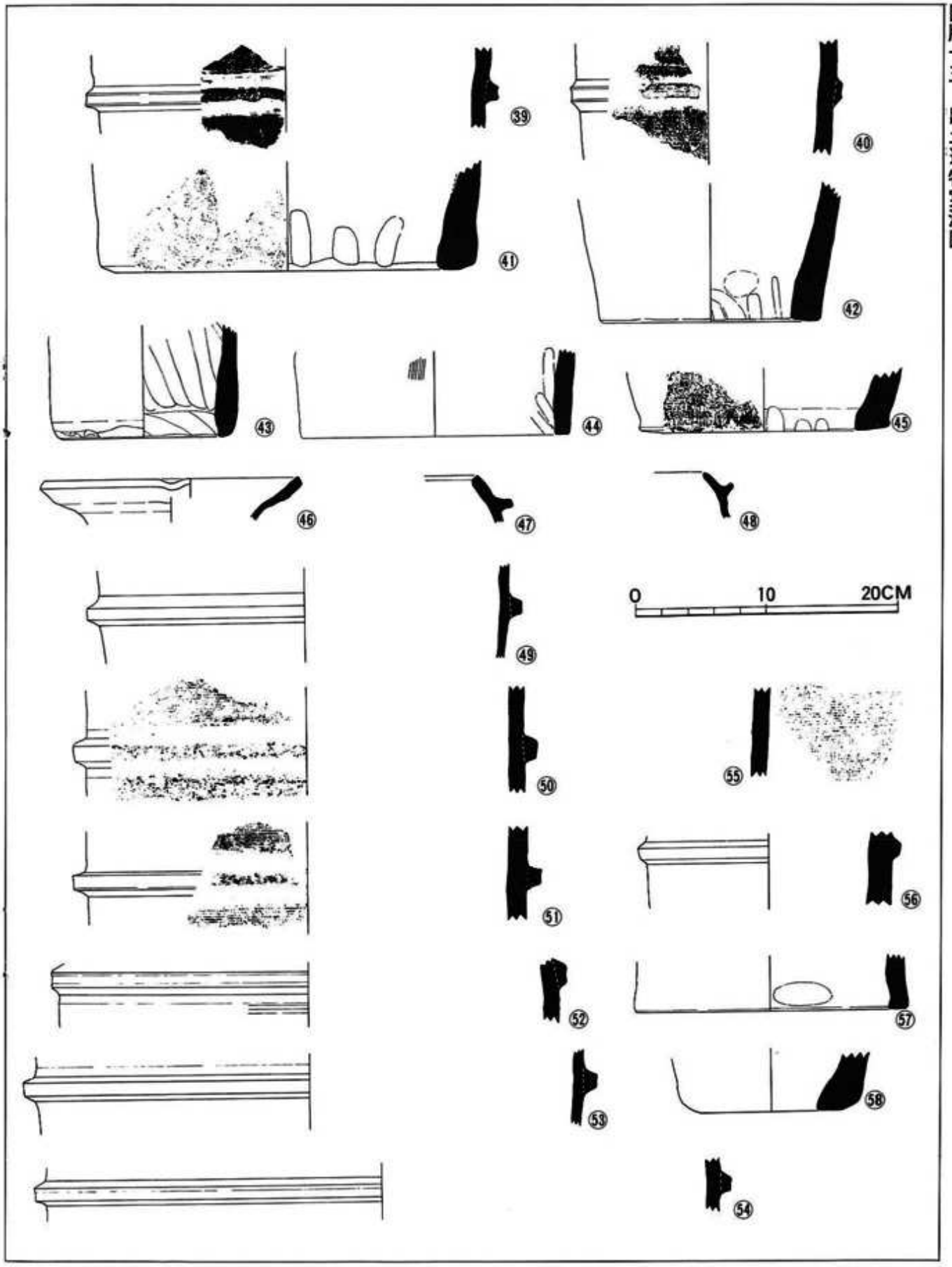


図版十二　第四～第十一トレンチ断面実測図




①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
0
10
20CM

図版十四　出土遺物実測図



図版十五　出土遺物実測図